

# グライダー愛好者支援「スカイネット角田」

# 会員100人突破 熱気上昇

阿武隈川河川敷のグライダー滑空場を核に、地域振興を目指す角田市の市民団体「スカイネット角田」の会員が、発足一周年を前に百人を突破した。十月には国内唯一という曲技飛行の競技会「エアロパティックジャパン」も開催予定で、活動に一層熱気が増してきた。

県内のグライダー愛好者 会員は両団体のメンバーは主に、仙台市若林区の陸一だけでなく、年数回の上自衛隊霞目飛行場で活動 体験搭乗会などを通じてしてきたが、利用時間など 空に関心を持った市内外で制約が多く、グライダーの一般市民にも広がり、専用の角田滑空場に拠点を 二十八日現在、百十人となった。

そうした中、市商工会青 スカイネットの佐藤忠義年部が「角田だけの素材と 代表理事は「グライダーをして好材料」とグライダー 楽しむ人が増えれば経済効に目を付けた。県航空協会 果も期待できる。会の目標と手を組んで「スカイスポ である航空公園の整備に向ーツのまち」を目指し、受けて今後も活動を盛り上げけ皿となるスカイネットを「たい」と話す。

**角田滑空場** 国から阿武隈川河川敷の利用許可を受け、県航空協会が整備した純民間の施設。幅40m、長さ1000mの草地に滑走路一本を備える。グライダー飛行に必要な上昇気流に恵まれ、雪や霧などの影響も少なく、愛好家は「国内有数の好条件」と太鼓判を押す。ただ、格納庫もない状態でハード面の整備が今後の課題。

今年で二回目となるエア

## 空を楽しむ拠点に 10月に2回目の曲技大会



昨年初めて開催されたエアロパティックジャパン—2004年10月 (スカイネット角田提供)

ロパティックは十月八、九の二日間開催。四人のパイロットが出場し、宙返りや背面飛行などグライダーの性能を極限まで引き出す。競技会形式で行われ、招待選手として、ポーランド1350。

から世界チャンピオンも参加する。会員は「少なくとも一万人以上の観客を集めたい」と連日、準備に奔走している。パイロットの招待、会場整備で約四百万円かかる開催費用の工面が悩みの種。県や市の助成で二百万円を確保し、あとは寄付で賄う方針だが、不況の影響などで振るわず、同ネットは募金を呼び掛けている。連絡先は事務局0224(61)